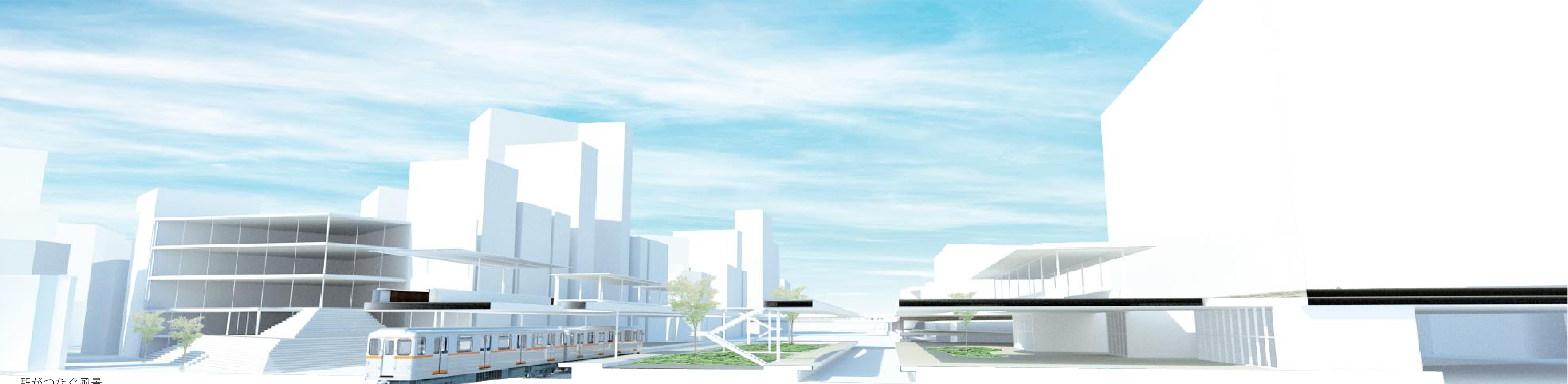




駅がたなぐ風景

■線路の作る2つの風景



独特のスケールを持つ線路沿いの風景のまちは、中央線の開通とともに発展を続けてきたまちであり、現在も丸ノ内線や東西線などの乗換駅として多くの人間に利用されているが、雑々線や地上GLを走る列車などの影響でローカルな駅舎の雰囲気と、現代的スケールが混在した駅前風景を作り出している。

■南北に特徴を分つ線路



敷地周辺は線路により北と南が分断され、それにより雰囲気や商業施設に違いのあるまち並みを作り出している。その2つの特徴の延長線上としての線路が、緩やかに北と南を繋いでいくことで、それぞれの良さを残しながら、一つのまちとしての一体感を持つ、新しい駅前の風景を作り出す。



■わかつものから繋ぐものへ

荻窪の地平線にある線路の風景を活かしつつ、まちの点と点を繋げていくように駅を作っていく。その駅は駅ビルや、目的の地としてだけでなく、本来まちの「はじまりの場所」として、人々の生活がまちに広がっていく玄関としてそこにあるべきなのではないかと考える。そうやって、線路沿いの風景一つ一つに目を向けながら駅を開発していくことで、互いに付加価値を与えながら発展し、人々がまちと駅という場所を一体のものとして体感できるとともに、アクティビティが距離を超えて広がっていくようなまちを作る。

